

自己評価及び外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域に根差した事業所の目標をスタッフの意見を取り入れて掲げ、それに沿った個人目標を立てることで事業所目標が達成出来るよう取り組んでいる。	管理者が事業所目標のベースを作り、基本方針に従って職員は個人目標を作っている。管理者によって定期的に目標管理がされている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域住民のボランティアは継続して行って貰っている。敬老会やお楽しみ会等の地域主催の行事に参加したり事業所での行事に近隣の方が参加して貰っている。	医療生協の組合員の協力により、様々な事業を行っている。地域住民との交流も多く、ホームの行事への参加がスムーズに行われている。又地域の行事への参加も多く良好な関係ができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	芹田地区4支部の組合員の集まるゆうゆう運営委員会では、地域の認知症の方の情報がありその支援方法に助言することもある。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	二か月に一度の会議では地域役員・行政・家族・利用者が参加し、その間の取り組みの報告をしそれぞれの立場から意見を頂きサービスの向上に繋げている。	運営推進会議は2か月に1回定期的開催され、地域包括、町内会長など必ず参加してもらい、活発に意見交換がされている。結果は内部で共有し、サービス改善に役立っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	介護保険課の担当者は予定が合わず参加出来ない事もあるが議事録を挙げて報告している。包括支援センター担当者は必ず運営推進会議に参加してもらい関係作りに努めている。	運営推進会議でのやり取りに芹田包括で必ず参加してもらい意見交換がされている。会議議事録も委員に提供して理解いただいている。	運営委員会は定期的に行われているので継続していただき、マンネリ化しない工夫をしてくださることを期待します。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日頃から、身体拘束をしないケアに努めている。どのような事が拘束に当たるかの確認もスタッフ会議等で確認し理解を深めている。	スタッフ会議で話し合い理解を深めている。ただしホームの立地が交通の激しい道路に面していることで、危険防止のため玄関のカギは施錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	言葉掛けや接し方でも虐待になることを意識しケアにあたっている。スタッフ会議での学習や話し合いも重ね、虐待への理解を深めている。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している利用者がいる。成年後見人には専門的な立場から情報を貰える関係性が出来ている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、改定時には重要事項説明書、契約書にて説明を行い理解・納得して頂いている。また、来所時にも疑問や不安のある場合は説明するようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の意見や要望などが忌憚なく把握・反映出来るよう、運営推進会議には多くの家族に出席してもらえるように参加要請を行っている。	ホームへは9人中6人の家族がよく来てくれているので、指摘ももらえるし、意見聴収は比較的よく行われている。家族以外に知人、後見人の人も来ており、運営推進会議には全家族に参加を求めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議ではスタッフの意見や提案が発言出来、皆で検討する機会がある。情報ノートにも気づきや提案を記入している。個人面談や日頃のコミュニケーションからも意見や提案を得るようにしている。	先生の往診2~3日前に月1回はスタッフ会議を開催している。特に医師への伝達事項、運営推進会議の内容、月々の趣旨についても話されている。会議の記録はしっかり残されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期昇給や年休の取得等、労働環境を整えやりがいを持って働ける職場作りに努めている。本部管理者も事業所の行事に参加したり、日頃から事業所に赴きスタッフの日常的な勤務状況を把握している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	通信教育の受講、学習会や研修に参加する機会を確保し、日々のケアを通して実践出来るよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	民医連のグループホーム担当者会議や善光寺ネットの会に参加し、他の事業所と交流することで情報を得てサービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	新しく入所した利用者は居ないが、日々のケアの中で自己表現出来ない利用者には不安や要望を感じ、察する事が出来るよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	それぞれの家族の状態に合わせた関係性の構築に努めている。おりに付け利用者の様子を知らせ、家族が安心できるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族から得た情報を元に、あらゆる方向性から何が一番必要とされているのか検討しサービスに繋げている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人ひとりの利用者が活躍出来る場面があり、スタッフや他の利用者はそれを認める関係性が出来ている。人生においての先輩として教えて頂けることが日頃から多くある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	いつでも事業所に面会に来れる雰囲気作りと家族からの支援があって事業所が成り立っていることを常に意識して運営にあたっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方との面会や外出の支援をし関係性が途切れないようにしている。	家族が来てくれると利用者は喜んでくれる。月に何回も来てくれる家族が多く、いい関係が保たれている。	家族や知人の訪問のない利用者に対して配慮したケアに取り組んでくださることを期待します。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	皆で行う活動には出来る限り全員で参加してもらい、出来る方が出来ない方を支えたり、また反対に支えることで自分の存在意識を高められる関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	お便りを出したり、時には退所利用者の家族と交流し、何かあったら支援出来る関係を保つよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話や支援の中で、利用者の意向や本音が引き出せるように、また察するよう努めている。	センター方式で利用者の情報を収集し、スタッフで共有している。人生の先輩であるという認識のもと、自分がしてほしいことを利用者にもをモットーに介護サービスに生かしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの暮らしの経過や生活歴を日頃の関わりの中や本人が表現出来ない時は家族から情報を得て把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントシートや個別記録を活用し心身状態や支援が必要な事の把握をしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画作成時には、本人・家族の意向お聞きしたうえでそれに即したプランが立案できるよう、スタッフ会議にて評価・検討を行っている。	作成時には必ず家族に聞くシステムができています。スタッフ会議で家族の希望を取り入れた介護計画の作成について評価検討をして完成させている。さらに家族の理解を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者のつぶやきや思い、普段と違った様子を主に記録するようにしている。情報ノートや日誌なども活用し、気づきや発見、変化も共有出来るようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	今年度、訪問歯科のサービスも始めた。日頃の口腔ケアも不安なく出来るようになり、義歯の不具合にも迅速に対応出来るようになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	以前住んでいた場所のお隣の方が訪問し届け物をして下さる事もある。餅つきの行事では近隣の方から用具をお借りし餅つきのノウハウから段取り、進行もしてもらい大いに助けて頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医は開所以来変わらず利用者の状態を常に把握して貰っている。急な状態の変化には随時往診に来て貰い、対応に困った時などは昼夜を問わず支援して貰える体制が出来ている。	主治医は全員稲里クリニックの医師になっている。月1回の往診のほかに緊急時には昼夜を問わず駆けつけてもらえるシステムになっている。様態が変化したときはまず訪問看護～医師～救急車といった流れで対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師が週1回定期的に訪問に来ている。利用者の状態の変化等は訪問時に記録を見てもらった的確に伝えている。日常的に心配な事があつたら報告指示を貰える体制が出来ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は頻繁に面会に行き、利用者の状態の把握に努めている。担当看護師やリハスタッフ、相談員から情報を得て退院のめどや帰所後の生活準備がスムーズに行くよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	日常的に利用者本人とは、終末についての意向を聞いている。家族には入居時や状態の変化した時に終末への意向確認を随時行い事業所の方針や出来ることについても説明している。	入所時に終末期医療について契約を取り交わしている。又進行状況により家族と話し合いながら看取りについても話し合い、ホームでの付き添い看取りもできる様になっている。ホームでできる看取り体制について家族に確認してもらっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	看護師の指導の元、緊急時の対応方法について学んでいる。日頃から、利用者のいつもと違う状態の気づきを持つようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	近隣住民の参加する避難誘導訓練を今年も実施した。実態に即していない部分もあるので、回を重ねて緊急時に備えたい。	災害時の備品は3年分用意している。食料は利用者用を3日分用意している。自家発電の設備はあるがまだ試してはない。スプリンクラーの設置は行っている。近所に参加してもらって避難訓練も9月に消防署参加で行っている。	自家発電を含め災害時の対応については定期的に点検しておくのが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に年長者であることを意識し対応するようにしている。認知症が進んでも子ども扱いしたり、個人の意思や思いを察する対応に努めている。	利用者は人生の先輩であるという認識のもとに介護にあたるということを常に教育している。	職員の内部教育は徹底しやすい環境にあると思いますが、今後外部研修の機会もできるだけ増やしていくことで質の向上を更に図ってください。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフ本位にならず、利用者の思いが聞けるよう、慌てず待つような言葉かけや対応に心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の日課や流れは大体あるが、自由に過ごせる時間も確保している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時には一緒に衣類を選び、本人の好みに合った服を身に着けて貰うようにしている。 一人で出来ない方は、起床時に洗顔・整容はきちんと整えるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お酒が好きな男性利用者には、時々晩酌を楽しんで貰うこともある。一緒に調理しながら教えて貰うことも多い。配膳や盛り付け、お茶入れは毎食やって頂いている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量はチェック表にて確認している。水分のなかなかなかすまない利用者には好みに合った飲み物を提供したり、時間をずらして飲んでもらったりして水分確保に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯磨きや義歯の洗浄の出来ない利用者は援助し、口腔内に不具合があった場合は訪問歯科の治療や指導を受けている。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を使用し排泄のタイミングをはかったり、拒否のある利用者には言葉がけに注意してトイレに誘うようにしている。	現在布パンツの人が2人。自分でトイレに行ける人が3人いる。自立度に従ってトイレ誘導を行い排泄支援にあっている。トイレは車いす用が2つ、普通が1か所ある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日牛乳を摂るようにしたり、食事には野菜が多く含んだ献立を提供している。また、体操などを行いなるべく便通が良くなるよう努めている。また、水分をしっかりと取るよう声掛けし勧めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴の時間帯は午後になっているが、早く入りたい方には早い時間に、遅く入りたい方には遅い時間に、それぞれの希望の時間に入れるようにしている。入浴剤を変えて香りや匂いを楽しんでもらっている。	週2~3回の入浴は必ず行っている。9人になったので1日に3人の入浴を行い、どうしても寝がけに入りたい人の対応は夕食前のなるべく遅めの一番最後の順番で対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	寝具は自宅で使っていた物を持ち込んで貰っており、安心出来ている。眠れない時は個々に応じた対応に心掛けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	毎月処方した薬は薬剤師が内服指導と共に事業所に届けて貰えるので、分からないことや注意すべき点、副作用などもその場で解決することが出来る。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	料理の得意な利用者は食事準備を行い、居室で書き物や勉強をしたり洗い物を日課として行う利用者もあり、それぞれの得意分野を發揮出来るよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日急に外出したいという希望にはなかなか応えることが出来ない現実ではあるが、日程を調整したりしてその希望が早急に叶うよう支援している。計画的な外出にはボランティアが付き添って下さる。	外出希望の利用者については計画を立ててできるだけ希望に添えるよう支援している。大勢の時はボランティアの支援もお願いしながら対応している。	

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出の折にはお小遣いを持って出かけ好きなように使えるようにしている。通帳を預かっている利用者は記帳をしに一緒に出掛けたりもしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけたい意向の時や頂いた手紙の返信を援助している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	明るすぎない照明や季節の花を飾ることで、温かみのある家を意識する空間づくりに心掛けている。古民家改修の省スペースを可能な限り活用できるよう努めている。	空間を上手に活用して温かみのある雰囲気を整えられている。行事写真なども変化を持たせて掲示されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングはテーブルを分けて配置し、気の合ったもの同士で過ごせたり、ソファで思い思いに過ごすことができる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には自宅から持ち込んだ使い慣れた家具やテレビなどを置き、自由に使って貰っている。飼い猫と同居することで安心した生活を送れる利用者もいる。	自宅にいるような自由な空間が作られている。特別な整理整頓の強制がされていないのが良い。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	オープンキッチンが一番低い作りにした。トイレなどの共用の場所にはその場所が分かるよう目印をつけている。居室にはベッドサイドへの手すりを整えたり個々に合った環境作りに努めている。		